

市民活動センターだより

10月

平成28年

vol.7



問い合わせ

○ながはま市民活動センター
長浜市役所〈本庁3階〉
平日 8時30分～17時15分
〒526-8501 八幡東町632

○北部サテライトセンター
きのもと交遊館
水・日曜日 9時～21時
〒529-0425 木之本町木之本1118

☎ 65-6525

✉ katsudou@city.nagahama.lg.jp

TOPIC | 今月の情報コーナー

地協の提案事業を紹介します

◇六荘地区地域づくり協議会◇ 長浜新川河川敷に健康遊具設置

六荘地域を流れる長浜新川。国道8号付近から琵琶湖に向かっての河川敷には川の両端に遊歩道が整備され、散策やウォーキング等を楽しむ姿が見られます。同協議会では、新川を地域のシンボルのひとつとしてより親しみをもってもらおうと、健康づくりに活用できるベンチの設置を始めました。



▲解放感たっぷりにストレッチを

全6基を設置予定で、今年度はまず2基から。背もたれがアーム状になっていて背筋伸ばしができるタイプと座面に仰向けに寝転んだ状態から腹筋ができるアーム付きタイプで、長浜病院北と六荘認定子ども園南の河川敷遊歩道の両岸に1基ずつ置いています。休憩ついでにちょっとした体力づくりに役立ちそうです。

◇田根地区地域づくり協議会◇ 田根シカバーガー好評

同協議会が地元の食育グループ「キッチン・キス」とタイアップして誕生した鹿肉のパテを使ったハンバーガーが話題を呼んでいます。鹿肉は鉄分やたんぱく質などが豊富な健康食材である一方、加熱するとパサつきがちになるため、ジューシーなパテになるよう燻製にしたベーコンを加えあいびきに。田根産の南高梅を使ったジャムがソースになっているのも特徴で、意外な相性に驚きます。

東京や京都、海外の大学生との交流がさかんな同地域。学生と地元住民とが、ものづくりを通じて地域の課題解決をめざすプロジェクト「SoHub」から生まれたアイデアで、包装も学生のデザインを採用。現在はイベント等の限定販売ですが、いずれは地元での本格加工・販売をめざしています。11月は浅井地域の各公民館での公民館祭りなどで販売予定。



◀季節ごとにソースが変わり、柚子ジャムもある
(1個350円予定)

※上記に記載する事業は、地域づくり協議会が地域の課題解決に向けて独自に企画提案する事業で、市が支援しています。

長浜暮らしデザインプロジェクト 受講生によるワークショップ開催

「長浜がこんなまちになったらいいな」という思いを実現するため、アイデアの発想法やワークショップ手法などを学ぶ当センター主催の講座「長浜暮らしデザインプロジェクト」。市内外から12人が受講、全7回の講義を9月に終えました。



▲わきあいあいとした雰囲気で行進

学びの成果を実践する試みとして、受講生5人が、内容の企画・設計から準備、当日進行まですべてを自分たちで行う体験講座「もう1枚の名刺をつくってみよう」を市内で開催しました。自己紹介のツールとなる名刺づくりを通じて、自らを振り返り、自分の価値や新たな可能性を考え、伝えてみようという内容。参加者9人の満足度も高く、企画した受講生にとって手ごたえを感じる機会となりました。

こんな活動しています！

あおもみこしほろ

青物神輿母衣保存会(湖北町速水)

毎年9月1日に行われる湖北町速水・伊豆神社の八朔大祭。通常の例祭に加え、五穀豊穡を祈って5年に一度奉納されるのが「青物神輿」で、町内外から集めた野菜や穀物80種以上を使って作られます。また10年に一度行われる「幡母衣武者行列」は、町内の20歳前後の青年が扮した母衣(※)武者とお付きなどの行列が町を練り歩きます。この独特の行事の保存継承に取り組むのが、町民有志約30人でつくる同会。神輿は材料の生産から段取りし、生鮮品ゆえ祭礼の約1週間前から皆で一斉に神輿づくりに取り掛かります。また武者が背負う母衣は、竹と提灯のバランスが大切に高い完成度が求められており、技術継承のため毎年制作します。

青物神輿の奉納年だった今年はさらに10月29(土)、30日(日)、日本各地の伝統芸能が集う「日本の祭りinながはま2016」で幡母衣武者行列を長浜駅前通り会場で披露します(29日午後)。町外に行列が出るのは初めてであり、今までにない貴重な光景を見ることができます。

※母衣…流れ矢を防ぐための武具。鎧の背に幅広の布を付け、風の力で膨らませて矢などを防いだ。のちに竹籠を入れた袋状のものになった。



【結 成】昭和57年
【活動場所】湖北町速水